

要約

女の子の 未来予報 を変えよう

気候危機が深刻化させる性暴力・児童婚・望まない妊娠と、
奪われる女の子たちの未来

要約

プラン・インターナショナルの今年の報告書「世界ガールズ・レポート2026」は、気候変動が女の子とユース女性の性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に及ぼす影響に焦点を当てている。本報告書は、思春期の女の子とユース女性の経験や考えに基づき、気候ショック(気候変動による災害や異常気象)が、避妊へのアクセス、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、早すぎる結婚(児童婚)¹・同居¹、望まない妊娠にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにしたものである。この分野では類を見ない本調査では、バングラデシュ、ケニア、ペルー、セネガル、ジンバブエの5カ国で、15歳から24歳の女の子とユース女性5,000人を対象とした大規模なアンケート調査を実施するとともに、同じ5カ国の139人の女の子とユース女性から対面で話を聞いた。

性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する情報やサービスへのアクセスは、女の子やユース女性が健康で安全な生活を送り、自らの力を発揮するために不可欠である。また、それは教育や就労の機会を追求し、結婚するかどうか、誰といつ結婚するか、さらに子どもを持つかどうか、いつ持つかについて自ら選択するための基盤となる。

しかし現在、女の子やユース女性は、こうした権利やサービスに対する脅威の高まりに直面している。資金削減、権利を後退させる政策、そして深刻化する気候危機の影響が重なり合い、彼女たちの権利と健康を脅かしているのである。

本報告書は、保健医療システムが機能不全に陥り、世帯の生計手段が損なわれ、保護のための仕組みが崩れていく中で、洪水、干ばつ、熱波などの気候事象が、なぜ、そしてどのように女の子とユース女性の選択肢を狭め、その生涯にわたって深刻な影響を及ぼすのかを検証している。また、どの分野に取り組むことが、女の子の生活に最も大きな変化をもたらすのかも明確に示している。

「ユースリーダーのグループを選べば、遠隔地のコミュニティで暮らす10代の若者たちに支援や情報を届けるとい、一つの目標に集中して取り組むことができます」と

Anahi, 15歳から19歳のフォーカスグループ、ペルー

免責事項: 本報告書に記載されている子どもとユースの氏名は、匿名性を確保するため変更されている。本報告書に掲載されている写真は、調査参加者を撮影したものではない。

¹ 本報告書では、「児童婚・同居」を、非公式な婚姻関係、および児童婚、強制された結婚を含む包括的な用語として使用している。



バングラデシュで、冠水した地域を舟で進む家族。主要河川の氾濫により、数千の家族が避難を余儀なくされた
© Plan International

調査結果

女の子の10人に9人が、**気候現象²**によって、**世帯の生計や健康、生活の安定が深刻な圧力にさらされていると回答した。**



本調査から、気候危機の影響が、女の子とユース女性の性と生殖に関する選択に深刻な影響を及ぼしていることが明らかになった。学校や診療所が閉鎖され、教育や将来の機会が制限され、家族が直面する経済的な困難は有害なジェンダー規範を強化し、女の子やその家族を望ましくない対処手段へと追い込んでいる。学校に通っていない女の子の中には、結婚や婚姻関係を唯一の選択肢と考えるようになるケースもみられる。女の子の生活に及び得る深刻な影響を軽減するために必要な性と生殖に関する健康(SRH)の情報やサービスも、十分に機能せず、ケアを提供することが困難になっている。児童婚・婚姻関係、性暴力、望まない妊娠に対してますます脆弱な状況に置かれている女の子とユース女性は、複合的な危機に直面している。

-  洪水はインフラやアクセスに最も大きな被害を及ぼし、道路を遮断し、学校や診療所を破壊し、住宅を居住できない状態にした。
-  干ばつは、家庭の収入を損ない、女の子の生活や機会に最も深刻な悪影響を及ぼしている。経済的不安定は、児童婚・婚姻関係などの有害な対処手段を促し、家庭内の緊張が高まるにつれて、ジェンダーに基づく暴力(GBV)に対する女の子の脆弱性を高める。
-  その負担は、すべての女の子に等しく及んでいるわけではない。(少数民族など)マイノリティの背景を持つ女の子は、サービスへのアクセスに困難を抱える可能性が2倍高く、望まない妊娠を経験したと報告する割合は約3倍、結婚や妊娠を迫られたと報告する割合は2倍以上にのぼった。
-  教育が中断された女の子は、18歳未満で結婚したり、望まない妊娠を経験したりする可能性が2倍高かった。二次分析の結果からも、教育が女の子を守る効果を持つことが確認された。教育水準が高い女の子とユース女性ほど、児童婚やジェンダーに基づく暴力(GBV)の発生率が低いことが明らかとなった。

「学校に通っている女の子は、自分たちの権利や児童婚に反対することや、自分の身を守る方法について教わっています...残念ながら、学校に通っていない女の子は、身を守るためのこうした重要な情報を得ることができません」

Faith、17歳、ケニア

² アンケート調査では、参加した女の子とユース女性に、これまで経験した中で最も深刻な気候現象について尋ね、その後の質問では、その気候現象による影響について尋ねた。選択肢は、猛暑、洪水、干ばつ、極寒、激しい嵐、地滑り・土砂崩れ、山火事であった。

女の子が経験した気候現象のうち、最も大きな被害をもたらしたのは、猛暑、洪水、干ばつであった。サービス、インフラ、コミュニティが機能しなくなる中、気候現象は、女の子とユース女性の生活、そしてSRHに、さまざまな形で深刻な影響を及ぼしている。

76%

が、自身のコミュニティで、性と生殖に関する健康(SRH)サービスの少なくとも1つを利用しにくくなっている女の子とユース女性が増えていると回答した。干ばつの影響を受ける地域では、その割合は84%に上った。また、68%が自身も利用に困難を経験したと回答した。

24%

が、女の子とユース女性が避妊サービスへのアクセスに困難を抱えていると回答し、彼女たちの17%は自身も困難を経験していた。

49%

が、妊娠中の健康問題や出産に関連する合併症を抱える女の子とユース女性が増えていると認識していた。干ばつの影響を受けている地域では、その割合は62%に上昇した。また、20%以上が自身もこうした問題を経験したと回答した。

28%

が、ジェンダーに基づく暴力(GBV)の増加を指摘した。そのうち66%は、性的搾取⁴の増加がGBVの増加につながっていると回答した。

³ すべての割合は、0.5%の場合を除き、最も近い整数に四捨五入している。0.5%については、報告された数値をそのまま示している。

⁴ 本調査の対象年齢が15歳から24歳にわたることから、本報告書では「取り引き的性交」ではなく「性的搾取」という用語を使用している。子どもは、金銭、物品、利益と引き換えに性行為を行うことについて、意味のある同意をすることはできない。そのため、国際的な子どもの保護基準に沿い、未成年者が関与する場合は、いかなる場合も搾取および虐待にあたる。ただし、アンケート調査の質問では「取り引き的性交」という用語を使用した。



24%

が、自身のコミュニティで、GBVの予防・対応サービスへのアクセスに困難を抱える女の子とユース女性が増えていると回答した。18.5%³は、自身も同様の困難を経験したと回答した。

36%

が、18歳未満で結婚する女の子が増えていると認識しており、11%は自身も18歳未満で結婚したと回答した。

33%

が、コミュニティ内で望まない妊娠が増えていると認識していた。11%は、自身も望まない妊娠を経験したと回答した。

「(干ばつと望まない妊娠は)明らかに関連しています。干ばつが起きると、家族は収入を失います。女の子たちはお金を得るために交際相手を求めるようになります」

Chenai、21歳、ジンバブエ

結論

こうした女の子たちへの影響は決して不可避ではない。本調査からは、女の子たちの権利と将来を守るうえで、継続的かつ戦略的な投資が特に重要となる**3つの分野**が明らかになった。

-  気候ショックが発生しても**女の子の教育が中断されない**ようにし、学校が提供する包括的性教育(CSE)、権利に関する知識、サービスに関する情報を継続して得られるようにすること
-  経済的圧力や気候変動による圧力によって増加する**児童婚・同居**をなくすための取り組みを強化すること
-  気候変動の影響を特に受けやすい環境で暮らす女の子たちを、固有のニーズを持つ集団として捉え、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を含むニーズに配慮した、質の高い包括的な支援を持続可能な形で提供すること

調査結果は、女の子たちの性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を守り、気候変動に関連する気候現象の発生時にも教育の継続を確保することが、児童婚・同居、望まない妊娠、ジェンダーに基づく暴力(GBV)といったさらなるリスクから女の子たちを守ることにもつながることを明確に示している。

女の子たちによれば、気候危機が深刻化するなかで、これらの問題はますます増加している。

「**2022年の洪水の際... 避難所は安全ではなかったため、男性たちは女の子たちを見守るために一晩中起きていました。人が多すぎるうえ、照明もなく、みんなが寝ている間に何か起きるのではないかと不安だったのです**」

Tahira、23歳、バングラデシュ



ケニアで、洪水により自宅が破壊された後、残された持ち物を拾い集める女の子
© Plan International

行動への呼びかけ

本調査からは、女の子とユース女性自身による、自らの性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を守り、気候災害による有害な影響から身を守るための実践的な提言が示された。女の子やユース女性に対しては、健康上のニーズを見据えた計画と十分な資金の確保が必要である。また、必要なサービスが継続して提供されること、中断されることなく教育を受けられること、さらに家族の経済的基盤が支えられることが求められている。



「**困難な状況に直面したとき、私たちは女の子同士で助け合います。互いを守り合い、近所の人の洗濯を手伝いながら、困難をどのように乗り越えるかをみんなで話し合います**」

Huguette、23歳、セネガル

-  気候危機への緊急対応の一環として、**性と生殖に関する健康と権利(SRHR)のための資金を確保すること**。利用可能な資金の一部を、現地の組織や女の子主導の組織に配分し、特に気候リスクの高い環境にある組織を重点的に支援する。
-  緊急対応の一環として、**SRHRに関する情報とサービスを利用できる状態に保つこと**。避妊具や月経用品を災害時の支援物資に含め、女の子とユース女性が暴力や結婚への圧力に直面した場合には、対象を絞った統合的な支援を提供する。
-  **女の子が学校に通い続け、中断されることなく学べるようにすること**。女の子は、気候ショックの発生前、発生中、発生後を通じて、包括的性教育(CSE)を含む安全で質の高い教育を継続して受けられることが、自身の権利と将来を守るうえで極めて重要であると認識している。中途退学のリスクが最も高い女の子を特定し、支援する必要がある。
-  **児童婚、望まない妊娠、搾取を生む経済的要因を断ち切ること**。気候ショックや経済的ショックによって家庭の貧困が深刻化するにつれて、児童婚や婚姻関係、性的搾取、望まない妊娠、中途退学が増加している。最も深刻な影響を受けている地域では、政府は、経済的圧力にさらされている家庭に対する食料供給、生計手段、インフラへの支援を計画しなければならない。
-  **思春期の女の子とユース女性が、彼女たちの生活に影響を与える意思決定に参加できるようにすること**。女の子は、ユース主導の危機対応計画に対する資金面と実務面での支援を求めている。誰一人取り残してはならない。気候リスクが最も高い環境で暮らす女の子、少数民族や先住民族に属する思春期の女の子、障害のある女の子、避難や移住をしている女の子、遠隔地で暮らす女の子、そして既婚、婚姻関係にある、または妊娠中の女の子など、すべての女の子の意見を聞き、意思決定に参加できるようにする必要がある。



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、誰もが平等な世界の実現を目指し85年以上にわたり世界80カ国以上で活動する国際NGOです。一人ひとりの子どもが本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化がもたらされることを信じて、子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに活動しています。特に、貧困や暴力、差別や排除によって弱い立場に置かれている女の子の支援に力を入れています。

子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組むことで、子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。

**誰もが平等な世界の実現にむけて、
歩みを止めずに進んでいきます。**

Plan International

International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

T +44 (0) 1483 755155

F +44 (0) 1483 756505

E info@plan-international.org

plan-international.org

 facebook.com/planinternational

 x.com/planglobal

 instagram.com/planinternational

 linkedin.com/company/plan-international

 youtube.com/user/planinternationaltv

 tiktok.com/planinternational.org

表紙写真: ペルーの雨季には、洪水により11歳のCianaの学業がたびたび中断される
© Plan International